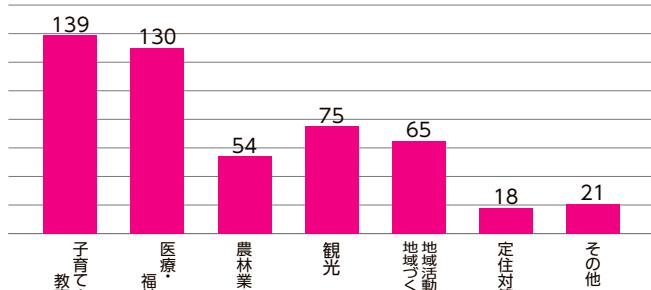


町民と共に考える

議員と話そう

令和7年10月18日から19日に開催された矢巾町秋まつりにて、町の未来を来場者と語り合うため、議会のブースを設け、矢巾町議員が来場者に「どんなことに関心があるか」アンケートを行うとともに、町民と町のことについて話しました。

「どんなことに関心があるか」アンケート集計結果



わたしの関心事は？

多くのご意見と熱意に感謝
議会のあり方調査検討特別委員会 委員長 谷上知子
「議員と話そう」にご協力いただき深く御礼申し上げました。矢巾町議会初の取り組みでした。議員と向き合い熱く話す女性、ボランティア活動の紹介や相談をする学生、観光産業や農業政策を訴える男性。生活環境の問題点を知らせてくださった若手のご家族。多くの意見が熱く語られました。予想を超えた参加者の興味関心のコーナー。共感や笑いにあふれたひとときの「議員と話そう」でした。

今後も皆様と共に語り、矢巾の明るい未来を目指します。

多くのご意見と熱意に感謝

議会のあり方調査検討特別委員会 委員長 谷上知子

議会フォーラム開催

ドカフェ方式で参加者の意見交換会を行いました。

令和7年12月13日「町民と語る議会フォーラム」を開催し、議会活動や議会改革の方向性を説明・報告しました。また、矢巾町議会アドバイザーの佐藤淳教授（青森大学）を講師にお迎えし、*ワール

ドカフェ方式で参加者の意見交換会を行いました。私たち矢巾町議会は、町民が議会に対して抱く疑問や期待などを直接伺い、双方向の対話による開かれた議会を目指しています。本フォーラムは、町民の声をお聴きできる貴重な機会となりました。



見学の方も含め60人弱の方にお集まりいただきました

議員定数・報酬

これらは今後の活動において当然考慮していきます。

今後の進め方

今回のフォーラムでいただいた皆様のご意見を参考に、

佐藤教授の講評

第1部では、主に議会のあり方調査検討特別委員会の活動の要である「議員定数・議員報酬」について、変遷や現在の検討内容を、分科会長の齊藤勝浩議員から説明と報告を行いました。

私は社会情勢や町財政を勘案し、議員報酬額の引き上げを見込んでいますが、町民の皆様にとつては次のようにご意見などもあることを認識しました。

参加者からのご意見など（一部）

○報酬について

・「上げてよい、見直すべき」

が多数。

・現状は安すぎる。20年間見直しがないのは問題。

・しつかり仕事をした人にはきちんと支払って欲しい。

・上げるにしても、適正水準を検討すべき。

・成果や活動に見合う説明や仕組みを求める。

・予算の範囲内でやりくりし、増額を。

○議会のあり方について

・開かれた議会として、対話の場の継続を望む。

・議会活動や議会の仕事を分かりやすく。（見える化）

・町民の代弁者として、自ら町民の声を拾つて欲しい。

○定数について

・町民の声を少しでも多く聞き届けるためにも、減らすべきではない。

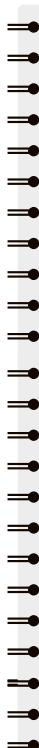
・町民の声を拾い上げるために、むしろ増やすべき。

○その他

・議会フォーラムの継続開催を望む。

リラックスした雰囲気で語り合うワールドカフェ方式により、会場は次第に熱気に包まれ、町民と議員の垣根を越えた対話が実現しました。

特に20年間据え置かれていた特別委員会で十分に検討を重ね調整を行います。また、皆様に検討結果を報告し、令和8年9月議会で特別委員会報告、12月に条例改正案を議会に提出する方向で進めます。



リラックスした雰囲気で語り合うワールドカフェ方式により、会場は次第に熱気に包まれ、町民と議員の垣根を越えた対話が実現しました。

特に20年間据え置かれていた特別委員会で十分に検討を重ね調整を行います。また、皆様に検討結果を報告し、令和8年9月議会で特別委員会報告、12月に条例改正案を議会に提出する方向で進めます。

特に20年間据え置かれていた議員報酬や定数について、参加者から「活動が見えるなら報酬増も必要」「多様な世代が参加できる環境を」といった、議会の未来を想う建設的なご意見が多く寄せられたことが印象的でした。これらは深刻な「なり手不足」を解消し、持続可能な議会を作るための極めて重要な視点です。

今回の改革は議員のためではなく、町民の声を町政に届ける機能を守るためにあります。会場で共有された生の声と熱意は、必ずや改革の確かな指針となるでしょう。